



あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

No.33 2023. 10

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

- 公開デーが開催されました
- 研究成果「ナガイモ根腐病に対するユニフォーム粒剤の施薬同時トレンチャー耕による防除」
- 青森県にんにく共進会が開催されました ○小学生が見学に来ました

野菜研究所「公開デー」が開催されました

令和5年9月8日（金）に野菜研究所と農産物加工研究所が共催で「公開デー」を開催し、約300名が来所しました。今年は、ようやく新型コロナウイルス感染症発生前に戻った状態での開催となりました。催事内容として、研究成果を紹介する成果パネル展示のほか、研究員がわかりやすく最新成果を解説するミニ講座を行いました。ミニ講座では、「写真を撮ればナガイモの生育がわかる！？」、「ナガイモの根腐病防除の新技术！～粒剤施薬同時トレンチャー耕～」、「ニンニク新品種「青森福雪」誕生！」を発表し、来所者が熱心に聴講していました。その他、野菜販売、農業資材・農業関連情報の展示、農機メーカーによる先端農業機械展示、JA全農あおもりによるにんにく共進会出品物の展示があり好評でした。また、今回は職場体験として六戸町立七百中学校の生徒2名が公開デーの準備や受付を手伝ってくれたほか、催事等を楽しんでいました。



ミニ講座の一場面



農事相談コーナー

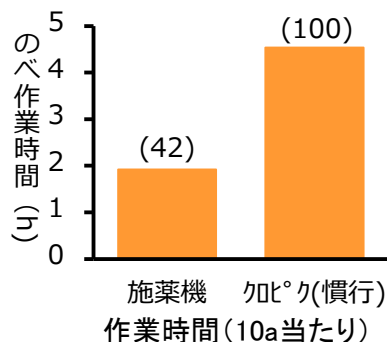
ながいもの根腐病に対するユニフォーム粒剤の施薬同時 トレンチャー耕による防除

野菜研究所病害虫管理部

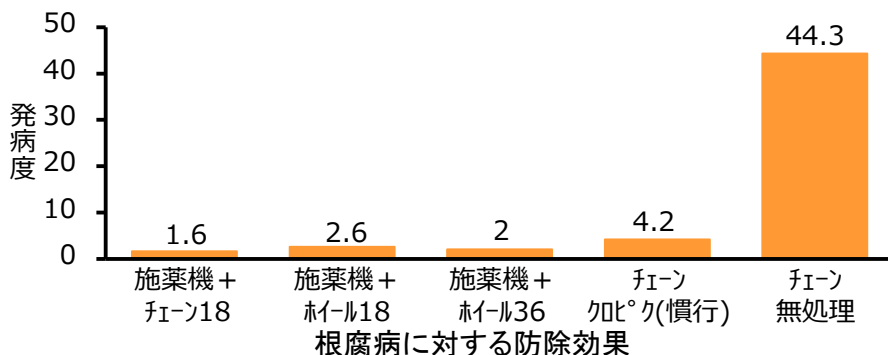
近年、ながいもを含むヤマノイモ根腐病に対し、ユニフォーム粒剤（アズキシストロビン・メタラキシルM粒剤）が農薬登録されました。しかし、使用方法が「作条土壌混和」であるため、これまで効率的な施用方法が無く、普及しにくい状況でした。そこで当研究所では、薬剤処理とトレンチャー耕を同時に実施できる施薬機を用いて検討したところ、高い防除効果と省力化等が認められましたので、ここに紹介いたします。



粒剤を散布する施薬機
(本試験では、後部トレンチャー
付け替えの必要があったため、
車体前部に取付)



■施薬機による粒剤のトレンチャー耕同時処理は、慣行（クロピク処理）と比べ作業時間が短縮しました（慣行比42）。



■無処理区と比較して、施薬機による粒剤処理区は慣行（クロピク処理）区と同等の高い防除効果が認められました。
■トレンチャーの種類（チェーン式、ホイール式）、薬量（18kg/10a、36kg/10a）の違いによる効果の差は認められませんでした。

コスト比較(10a当たり)

処理区	薬剤費 (円)	被覆資材費 (円)	人件費 (円)	廃プラ処理 料 (円)	合計
ユニフォーム (施薬機)	41,610	—	1,638	—	42,798
ユニフォーム (手散布)	41,610	—	2,474	—	43,634
クロピク	36,345	11,846	7,822	1,369	57,382

注1) 価格は令和5年1月6日現在の実勢価格

注2) ユニフォーム粒剤は、18kg/10a処理で算出

注3) 人件費は、時給853円として算出

■施薬機による粒剤処理の処理コスト合計は、クロピク処理と比べ薬剤費はやや高いが、人件費が低く、被覆資材費、廃プラ処理料も不要のため、14,584円低くなります。

期待される効果

クロピク処理時に必要な被覆や消毒期間、ガス抜き期間の確保が不要となるため、防除に要する期間を大幅に短縮でき、適期植付や廃プラスチックの排出削減に寄与すると考えられます。また、クロピクリンくん蒸剤と比較して作業員に対する安全性が高いほか、土壌くん蒸面積が削減されることにより、環境への負荷軽減に寄与すると考えられます。

お問い合わせ

野菜研究所病害虫管理部まで(Tel0176-53-7085)

青森県にんにく共進会が開催されました

公開デー前日の9月7日（木）にJA全農あおもりが主催する「青森県にんにく共進会」が開催され、8農協から合計102点の出品がありました。形状の揃いや大きさなどの審査基準に基づき厳正な審査により、最優秀賞1点、優秀賞1点、優良賞5点が選ばれ、最優秀賞にはJA十和田おいらせ管内の生産者のものが選ばれました。今年は春の高温・乾燥等の影響か審査基準の一つである「とうの抜け」がない出品物が多くありましたが、上位入賞のものは、とうがしっかり抜け、大玉で形の揃ったものでした。



審査の様子



審査員の合議で決定された各賞の出品物

小学生が見学にきました

9月29日、六戸町立大曲小学校2学年の生徒66人が当研究所に社会見学にきました。今年は紅組、白組に分かれ、それぞれダイズ、ナガイモ圃場で作物の様子をみた後、トラクターなどの大型機械を見学しました。新藤研究管理監が子供にわかるように話しかけ、生徒たちは目を輝かせながら話を聞いていました。



ナガイモのイモ生育について話に聞き入る生徒たち

この生徒たちの中から、将来、農業者や研究者が誕生することを願います。

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所

〒033-0071 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91 0176-53-7171